

(その18)

「大森喜一先生頌徳碑」にきく

御南中学校校庭の東南の隅に、昭和32年に建てられた「大森喜一先生頌徳之碑」があるのは、皆さんもご存知のことと思う。しかし、その謂れはとなるとどうであろうか。

昭和二十一年一月二十日建

万波 憲治 撰 書

大森喜一先生明治七年五月生御野郡今村辰巳夙学岡山中学校業成奉職
今村小学校二十年間村敬仰如慈父後為関西中学校理事長創設今村産業
組合大正十二年選県會議員致力県政功績顯著就中御津郡南部發展者為
有笛瀬川改修克服幾多困難昭和七年着工七年費歲月興百数十万円同十
三年見其完成矣惜哉翌年六月卒然逝享年六十有五先生資性寬厚為公不
顧私所謂殺身成仁者乎今也御南方面面目一新御南中学予防会病院後保
護指導所県養鶏研究所國立職業補導所等呈幾多近代施設之美觀較之往
年干拓當時之姿美有隔世感矣司謂是皆先生達見之結昌也偉哉先生德先
生逝茲二十年念先覺遺澤者胥課建碑以欲佛不朽介友人荒木清志君來求
文有志諸氏美舉不堪感激乃不顧不文叙事蹟梗概寒責云爾

また、「大森先生」がどういう方が知らない人が多いのではなかろうか。と言っても、私も勿論先生と面識があつたわけではなく、先生のことは、石碑にきく以外に方法はないのである。幸い裏の碑文が語ってくれそうである。碑文は別掲のとおりであるが漢文調になっているので、私なりに現代風につぎのとおり意訳してみた。双方を読んでいただければ幸いである。(碑文は全て旧漢字であるが、別掲は現代漢字を使った。例、學=学 また、本文の終わりから2行目の「悌」の字は碑の文字が判然としないので推定である。)

大森喜一先生は、明治7年5月御野郡今村辰巳(注1)に生まれる。(小学校からさらに)岡山中学校(注2)に学び、卒業後今村小学校へ20年間奉職された。そして、村内では慈父の如く敬仰される。後、関西中学校理事長をされ、また、今村産業組合を創設された(注3)。大正12年には県會議員に選ばれ県政にも力を尽くされその功績は顯著であった。なかんずく、御津郡南部の発展には笛が瀬川改修を実施するにありとし、幾多の困難を克服されて昭和7年着工、7年の歳月と百数十万円の費用(注4)を費やして昭和13年その完成をみたのである。

惜しいかな翌年6月、にわかに亡くなられた。享年65歳であった。先生は資性寬厚で、公

のためには私を顧みない、所謂「身を殺して仁を成す」の方でした。(注5)

今や御南地方面目一新、御南中学校・予防会病院・後保護指導所・県養鶏研究所・国立職業補導所等(注6)幾多の近代施設が美觀を呈し、往年の干拓當時(注7)の姿と比べれば実に隔世の感あり、これ皆先生の達見の結晶なりと言うべきである。

偉大なるかな先生の徳、先生逝去されて20年。ここにおいて、先覚の恩恵をうけた者たちが相謀り、その面影を永久に伝えるため碑を建てようとの意向により、荒木清志君(注8)から友人を介して碑文の作成を求められた。私は、有志諸氏の美拳に感激し不文をも顧みず事蹟の梗概を叙して責を塞いだ次第である。

碑文と書の作者の万波憲治氏のことは、残念ながらよく分からぬ。

現在、今地区は都市化が進展し大きく変容してしまった。「隔世の感」を一層深くしながら先生の碑を仰ぐのみである。

注1 先生の出生当時は「御野郡辰巳村」で当地「田中村」の東隣である。

注2 「岡山中学校」は現「岡山朝日高校」の前身

注3 今村産業組合は、今村信用生産組合として大正9年設立された。そして先生が初代組合長になられた。

注4 篦ヶ瀬川改修工事は、国の施工で費用は115万円とか(今村史による)現在の貨幣価値に直すと23億円くらいと言えようか。

注5 当時の県会議員は名誉職的存在、信用組合長も責任こそ重けれ無報酬的処遇ではなかったかと思える。先生は職務のために多額の資財を投ぜられたときく。

注6 現在は、後保護指導所は岡山西養護学校に、養鶏研究所は岡山福祉の郷(県総合社会福祉センター)に、職業補導所はポリテクセンター(技能開発センター)に変わっている。

注7 上記諸施設は、篠ヶ瀬川改修工事によってできた干拓地に建設されたのであるが、それは戦後のことで、改修工事が完成した頃の干拓地は草ぼうぼうの状態であった。

注8 荒木清志氏は今村出身で、当時株式会社荒木組(建設会社)の社長であった。

平成5年10月号 第28号

(中 尾 佐之吉)